

研 修 区 分 表

令和 3 年 6 月 2 0 日 作 成

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
1 職務の理解 (6時間)	6	—	—	6	到達目標 ●介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組むことができる
(1)多様なサービスの理解	3	—	—	3	講義の内容 ①介護保険サービス(居宅、施設)②介護保険外サービス
(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	—	—	3	講義の内容 ①居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ②居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ③ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 演習の実施方法 *DVD:施設・在宅・グループホームの実態を視聴 *グループワーク:介護職のイメージを話し合う
2 介護における尊厳の保持・自立支援 (9時間)	9	—	—	9	到達目標 ●介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点およびやってはいけない行動例を理解している
(1)人権と尊厳を支える介護	3	—	—	3	講義の内容 (1)人権と尊厳の保持 ①個人としての尊重、②アドボカシー、③エンパワメントの視点 ④「役割」の実感、⑤尊厳のある暮らし、⑥利用者のプライバシーの保護 (2)ICF:介護分野におけるICF (3)QOL:①QOLの考え方、②生活の質 (4)ノーマライゼーション:ノーマライゼーションの考え方 (5)虐待防止・身体拘束禁止 ①身体拘束禁止、②高齢者虐待防止法、③高齢者の養護者支援 (6)個人の権利を守る制度の概要 ①個人情報保護法、②成年後見制度、③日常生活自立支援事業 演習の実施方法 *事例検討 身体拘束に関する事例からしてはいけない行動を探る
(2)自立に向けた介護	4	—	—	4	講義の内容 (1)自立支援 ①自立・自律支援、②残存能力の活用、③動機の欲求、④意欲を高める支援、⑤個別性/個別ケア、⑥重度化防止 (2)介護予防 介護予防の考え方 演習の実施方法 *個人ワーク:介護予防と介護の共通点と相違点
(3)人権に関する基礎知識	2	—	—	2	講義の内容 ①人権に関する基本的な知識、②同和問題等
3 介護の基本 (6時間)	6	—	—	6	到達目標 ●介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ●介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。

(1) 介護職の役割、 専門性と多職種との連携	2	-	-	2	講義の内容 (1) 介護環境の特徴の理解 ①訪問介護と施設介護サービスの違い、②地域包括ケアの方向性 (2) 介護の専門性 ①重度化防止・遅延化の視点②利用者主体の支援 ③自立した生活を支えるための援助、④根拠ある介護 ⑤チームケアの重要性、⑥事業所内のチーム、⑦多職種から成るチーム (3) 介護に関する職種 ①異なる専門性を持つ多職種の理解②介護支援専門員 ③サービス提供責任者、④看護師等とチームとなり利用者を支える意味、⑤互いの専門職能力を活用した効果的なサービス提供、⑥チームケアにおける役割分担
(2) 介護職の職業倫理	1	-	-	1	講義の内容 (1) 職業倫理 ①専門職の倫理の意義、②介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）、③介護職としての社会的責任、④プライバシーの保護・尊重 演習の実施方法 * グループレポート／発表 各グループでの課題をまとめて講義形式で発表・訪問介護と施設介護サービス ・チームケア、アプローチの具体的な内容 ・介護に携わる専門職と各々の役割 ・利用者や家族とかかわる際の注意点（倫理の観点から）
(3) 介護における安全の確保と リスクマネジメント	2	-	-	2	講義の内容 (1) 介護における安全の確保 ①事故に結びつく要因を探り対応していく技術、②リスクとハザード (2) 事故予防、安全対策 ①リスクマネジメント、②分析の手法と視点、③情報の共有 ④事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町への報告等） (3) 感染対策 ①感染原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断） ②「感染」に対する正しい知識
(4) 介護職の安全	1	-	-	1	講義の内容 (1) 介護職の心身の健康管理 ①介護職の健康管理が介護の質に影響、②ストレスマネジメント ③腰痛の予防に関する知識、④手洗い・うがいの励行 ⑤手洗いの基本、⑥感染症対策 演習の実施方法 * 事例検討：ある介護福祉士のケアを通しリスクを探す * 手洗いの実際と評価
4 介護・福祉サービスの理解 と医療との連携（9時間）	9	-	-	9	到達目標 ●介護保険制度や障がい者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。
(1) 介護保険制度	3	-	-	3	講義の内容 (1) 介護保険制度創設の背景および目的、動向 ①ケアマネジメント②予防重視型システムへの転換、 ③地域包括支援センターの設置、④地域包括ケアシステムの推進 (2) 仕組みの基礎的理解 ①保険制度としての基本的仕組み②介護給付と種類、 ③予防給付、④要介護認定の手順 (3) 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割 ①財政負担、②指定介護サービス事業者の指定 演習の実施方法 * シミュレーション 介護サービスを利用するまでの手続きを図式化する作業を通じて申請方法、介護認定の決定、サービス利用までの経過を辿りながら理解を深める

(2) 医療との連携とリハビリテーション	3	-	-	3	<p>講義の内容</p> <p>① 医行為と介護、② 訪問看護、 ③ 施設における看護と介護の役割・連携、 ④ リハビリテーションの理念</p> <p>演習の実施方法</p> <p>* ワーク 「介護との連携」が必要なものの役割や繋がりを知ることのためにエコマップとして作製</p>
(3) 障がい者総合支援制度およびその他制度	3	-	-	3	<p>講義の内容</p> <p>(1) 障がい者福祉制度の理念 ① 障がいの概念、② ICF（国際生活機能分類）</p> <p>(2) 障がい者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで</p> <p>(3) 個人の権利を守る制度の概要 ① 個人情報保護法、② 成年後見制度、③ 日常生活自立支援事業</p> <p>演習の実施方法</p> <p>* ワーク 提示する5ケースについて、どの制度のどれを活用すれば、個人の権利を守ることができるかを考えることで制度の違い等を学ぶ</p>
5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）	6	-	-	6	<p>到達目標</p> <p>● 高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解できる</p>
(1) 介護におけるコミュニケーション	3	-	-	3	<p>講義の内容</p> <p>(1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ① 相手のコミュニケーション能力への理解と配慮 ② 傾聴 ③ 共感の応答</p> <p>(2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ① 言語的コミュニケーションの特徴、② 非言語コミュニケーションの特徴</p> <p>(3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ① 利用者の思いの把握、② 意欲低下の要因を考え ③ 利用者の感情に共感する、④ 家族の心理的理解、 ⑤ 家族へのいたわりと励まし、⑥ 信頼関係の形成 ⑦ 自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする ⑧ アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い</p> <p>(4) 利用者の状況・状況に応じたコミュニケーション技術の実際 ① 視力、聴力の障がいに応じたコミュニケーション技術、 ② 失語症に応じたコミュニケーション技術 ③ 構音障がいに応じたコミュニケーション技術 ④ 認知症に応じたコミュニケーション技術</p> <p>演習の実施方法</p> <p>* ロールプレイ／ワークショップ ・ 双方向のコミュニケーション（2人ひと組の実技） ・ 伝えること／伝わる事を絵にして理解する ・ 相手の状況、障がいにあった声かけ（疑似体験）</p>
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3	-	-	3	<p>講義の内容</p> <p>(1) 記録における情報の共有化 ① 介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録 ② 介護に関する記録の種類、 ③ 個別援助計画書（訪問・通所・入所・福祉用具貸与）、 ④ ヒヤリハット報告書、⑤ 5W1H</p> <p>(2) 報告 ① 報告の留意点、② 連絡の留意点、③ 相談の留意点</p>

					<p>(3) コミュニケーションを促す環境</p> <p>①会議、②情報共有の場、③役割の認識の場（利用者と頻りに接触する介護者に求められる観察眼）</p> <p>④ケアカンファレンスの重要性</p> <p>演習の実施方法</p> <p>* 一場面事例：「報告書」の実際 各自で報告書を作成し互いに評価し合う</p> <p>* カンファレンスの実際 グループに分れて疑似カンファレンスを実施</p>
6 老化の理解（6時間）	6	-	-	6	<p>到達目標</p> <p>●加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解できる</p>
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	-	-	3	<p>講義の内容</p> <p>(1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴</p> <p>①防衛反応（反射）の変化、②喪失体験</p> <p>(2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響</p> <p>①身体的機能の変化と日常生活への影響、②咀嚼機能低下、③筋・骨・関節の変化、④体温維持機能の変化</p> <p>⑤精神的機能の変化と日常生活への影響</p> <p>演習の実施方法</p> <p>* 個人ワーク 人物の絵に、高齢者の身体特徴を書き込みながら理解を深め、かかりやすい病気の傾向へ繋げ考える</p>
(2) 高齢者と健康	3	-	-	3	<p>講義の内容</p> <p>(1) 高齢者の疾病と生活上の留意点</p> <p>①骨折、②筋力の低下と動き・姿勢の変化、③関節痛</p> <p>(2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</p> <p>①循環器障がい（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）、②循環器障がいの危険因子と対策、③老年期うつ病</p> <p>④誤嚥性肺炎、⑤病状の小さな変化に気付く視点</p> <p>⑥高齢者は感染症にかかりやすい</p> <p>演習の実施方法</p> <p>* グループワーク ・日常生活における介護の際に、高血圧、糖尿病、脳梗塞等を有している利用者の何に気をつければよいか話し合い発表し合う</p>
7 認知症の理解（6時間）	6	-	-	6	<p>到達目標</p> <p>●介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断基準となる原則を理解できる</p>
(1) 認知症を取り巻く状況	1	-	-	1	<p>講義の内容</p> <p>▶ 認知症ケアの理念</p> <p>①パーソンセンタードケア</p> <p>②認知症ケアの視点（できることに着目する）</p>
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	-	-	2	<p>講義の内容</p> <p>▶ 認知症の概念</p> <p>▶ 認知症の原因疾患とその病態、原因</p> <p>▶ 疾患別ケアのポイント ▶ 健康管理</p> <p>①認知症の定義、②もの忘れとの違い、③せん妄症状</p> <p>④健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）</p> <p>⑤治療、⑥薬物療法、⑦認知症に使用される薬</p> <p>演習の実施方法</p> <p>* グループワーク ・講義やテキストを参考に、「認知症の人の置かれている世界」と題して話し合う</p>

(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	-	-	2	講義の内容 (1) 認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴 ①認知症の中核症状 ②認知症の行動・心理症状（BPSD） ③不適切なケア、④生活環境で改善 (2) 認知症の利用者への対応 ①本人の気持ちを推察する②プライドを傷つけない、 ③相手の世界に合わせる、④失敗しないような状況をつくる ⑤すべての援助行為がコミュニケーションであると考えること ⑥身体を通じたコミュニケーション ⑦相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する ⑧認知症の進行に合わせたケア
(4) 家族への支援	1	-	-	1	講義の内容 ①認知症の受容過程での援助 ②介護負担の軽減（レスパイトケア） 演習の実施方法 * 一場面事例 ・入所した認知症高齢者の翌朝の場面を提示 認知症の人自身の思いを押し量り声かけの仕方などを考える * ロールプレイング ・認知症高齢者と暮らす家族の訴えの対応
8 障がいの理解（3時間）	3	-	-	3	到達目標 ●障がいの概念とICF、障がい者福祉の基本的考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解できる
(1) 障がいの基礎的理解	1	-	-	1	講義の内容 (1) 障がいの概念とICF ①ICFの分類と医学的分類、②ICFの考え方 (2) 障がい者福祉の基本理念 ①ノーマライゼーションの概念 演習の実施方法 * 調べ作業 ・全テキストからICF／ノーマライゼーションの語句を探し、その数とどのような場面や内容で使われているかを調べる
(2) 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴 かかわり支援等の基礎的知識	1	-	-	1	講義の内容 (1) 身体障がい ①視覚障がい、②聴覚、平衡障がい、 ③音声・言語・咀嚼障がい、 ④肢体不自由、⑤内部障がい (2) 知的障がい ①知的障がい (3) 精神障がい（高次脳機能障がい・発達障がいを含む） ①統合失調症・気分（感情障がい）・依存症などの精神疾患 ②高次脳機能障がい ③広汎性発達障がい・学習障がい・注意欠陥多動性障がいなどの発達障がい (4) その他の心理の機能障がい 演習の実施方法 * レポート ・「かかわり支援」について具体的な方法を考えレポートする
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	1	-	-	1	講義の内容 ▶ 家族への支援 ①障がいの理解・障がいの受容支援②介護負担の軽減 演習の実施方法 * 事例検討 ・事例から「障がい受容のプロセス」を読み取り理解する

9	こころとからだのしくみと生活支援技術（75時間）	68	—	7	75	<ul style="list-style-type: none"> ●介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる ●尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する
	【Ⅰ 基本知識の学習】 (1) 介護の基本的な考え方	3	—	—	3	<u>講義の内容</u> ①倫理に基づく介護 （ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除） ②法的根拠に基づく介護 <u>演習の実施方法</u> * 事例の状況把握 ・一事例を提供し、置かれている状況をICFの構図に基づいて考えることで、介護とは何かを各々が思い描き、実技の際の活用する
	(2) 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	—	—	4	<u>講義の内容</u> ①学習と記憶の基礎知識、②感情と意欲の基礎知識 ③自己概念と生きがい ④老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因 ⑤こころの持ち方が行動に与える影響 ⑥からだの状態がこころに与える影響 <u>演習の実施方法</u> * 一場面事例（個人ワーク） ・ある高齢者の日々の出来事における喪失感を考える
	(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3	—	—	3	<u>講義の内容</u> ①人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ②骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、 ③中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ④自律神経と内部器官に関する基礎知識 ⑤こころとからだを一体的に捉える ⑥利用者の様子の普段との違いに気づく視点 <u>演習の実施方法</u> * 一場面事例 ・施設入所中の高齢者の様子から重大な身体変化に結び付く気づきを得るための練習
	【Ⅱ 生活支援技術の学習】 (4) 生活と家事	4	—	—	4	<u>講義の内容</u> ▶ 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎知識と生活支援 ①生活歴、②自立支援、③予防的な対応、④主体性・能動性を引き出す、⑤多様な生活習慣、⑥価値観 <u>演習の実施方法</u> * 事例検討（一場面） ・一人暮らしのAさんの援助を生活歴、習慣を踏まえて考える（食事、環境整備について）
	(5) 快適な居住環境整備と介護	5	—	—	5	<u>講義の内容</u> ▶ 快適な居住環境に関する基礎知識 ▶ 高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ①家庭内に多い事故、②バリアフリー、③住宅改修 ④福祉用具貸与 <u>演習の実施方法</u> * 事例検討 ・住宅改修の実際をグループで検討する
	(6) 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5	—	—	5	<u>講義の内容</u> ▶ 整容に関する基礎知識 ▶ 整容の支援技術 ①身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 ②身じたく ③整容行動 ④洗面の意義・効果 <u>実技内容</u> * 歯磨きの実際（ペア） * 衣類の着脱：（グループ モデル／介助者） 片麻痺の設定パジャマの着脱（座位／ベッド上）

<p>(7) 移動・移乗に関連した こととからだのしくみと 自立に向けた介護</p>	6	-	-	6	<p>講義の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 移動・移乗に関する基礎知識 ▶ さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法 ▶ 利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ▶ 移動と社会参加の留意点と支援 <ul style="list-style-type: none"> ① 利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ② 利用者の自然な動きの活用 ③ 残存能力の活用・自立支援 ④ 重心・重力の働きの理解 ⑤ ボディメカニクスの基本原理 ⑥ 移乗介助の具体的な方法 (車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助で車いす・洋式トイレ間移乗) ⑦ 移動介助 (車いす・歩行器・つえ等) ⑧ 褥瘡予防 <p>実技内容</p> <ul style="list-style-type: none"> * 体位交換⇒シーツ交換 褥瘡予防 * 車椅子の操作 (介助方法) * 全面介助：車いす⇄ベッド移乗、洋式トイレ移乗 * 外部での移動練習 (杖 歩行器 車いすでの介助)
<p>(8) 食事に関連した こととからだのしくみと 自立に向けた介護</p>	5	-	-	5	<p>講義の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 食事にに関する基礎知識 ▶ 食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ ▶ 楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ▶ 食事と社会参加の留意点と支援 <ul style="list-style-type: none"> ① 食事をする意味、② 食事のケアに対する介護者の意識 ③ 低栄養の弊害、④ 脱水の弊害、⑤ 食事と姿勢、 ⑥ 咀嚼・嚥下のメカニズム、⑦ 空腹感、⑧ 満腹感、⑨ 好み ⑩ 食事の環境整備 (時間・場所等) ⑪ 食事に関した福祉用具の活用と介助方法 ⑫ 口腔ケアの定義、⑬ 誤嚥性肺炎の予防 <p>実技内容</p> <ul style="list-style-type: none"> * 嚥下体験 (嚥下機能を感じる体験) * 食品形態別による体験 * とろみを利用した水分摂取 * 食事介助の実際 寝ている人／車いす／椅子への介助 * 嚥下障がいある人の食事介助
<p>(9) 入浴、清潔保持に関連した こととからだのしくみと 自立に向けた介護</p>	6	-	-	6	<p>講義の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 入浴、清潔保持に関連した基礎知識 ▶ さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法 ▶ 楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 <ul style="list-style-type: none"> ① 羞恥心や遠慮への配慮、② 体調の確認 ③ 全身清拭 (身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方) ④ 目・鼻腔・耳・爪の清潔方法 ⑤ 陰部清浄 (臥床状態での方法)、⑥ 足浴・手浴・洗髪 <p>実技内容</p> <ul style="list-style-type: none"> * 入浴用具別の介助方法の実際 <ul style="list-style-type: none"> 一般浴槽／中間浴／特浴／シャワー浴 * 浴槽の介助 (片麻痺設定) * 手浴と足浴 * 身体の洗い方、手順等の実際 * 泡の効果 (泡を作る方法、使用方法)

<p>(10) 排泄に関連した ところとからだのしくみと 自立に向けた介護</p>	5	-	-	5	<p>講義の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法 ▶ 爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 <ol style="list-style-type: none"> ①排泄とは、②身体面（生理面）での意味、③心理面での意味 ④社会的意味、⑤プライド羞恥心、⑥プライバシーの確保 ⑦おむつは最後の手段／おむつ使用の弊害 ⑧排泄障がい日常生活上に及ぼす影響 ⑨排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、 ⑩一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法 ⑪便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食事を多く取り入れる、腹部マッサージ） <p>実技内容</p> <ul style="list-style-type: none"> * 車いすトイレでの移乗・介助 * ポータブルトイレ⇄ベッド移乗・介助 * ベッド上での尿器等の介助方法 * ベッド上でのおむつ交換の方法・手順 * 陰部洗浄の実際
<p>(11) 睡眠に関する ところとからだのしくみと 自立に向けた介護</p>	5	-	-	5	<p>講義の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法 ▶ 快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 <ol style="list-style-type: none"> ①安眠のための介護の工夫 ②環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）、 ③安楽な姿勢・褥瘡予防 <p>実技内容</p> <ul style="list-style-type: none"> * 安楽な体位の体験 寝具の工夫等 * グループで安眠できる環境（光、寝具等も含む）にうちて話し合い、実際にその環境を作り工夫した点等を披露する。
<p>(12) 死にゆく人に関する ところとからだのしくみと 終末期介護</p>	5	-	-	5	<p>講義の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ ▶ 生から死への過程 ▶ 「死」に向き合うこころの理解 ▶ 苦痛の少ない死への支援 <ol style="list-style-type: none"> ①終末期ケアとは ②高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）、 ③臨終が近づいたときの兆候と介護 ④介護従事者の基本的態度 ⑤多職種間の情報共有の必要性 <p>演習の実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> * 事例・一場面 死に至る過程に沿って、各々の場面に必要な援助や声かけ、身体面での注意等を考えながら学ぶ
<p>(13) 施設実習</p>	-	-	7	7	<p>実習の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ さらにより効果的な研修となることを目的として施設見学実習を実施する ▶ これまで学んだ「ところとからだのしくみと自立に向けた介護」が現場でどのように展開されているかを知る
<p>【Ⅲ 生活支援技術演習】 (14) 介護過程の基礎的理解</p>	6	-	-	6	<p>講義の内容</p> <ol style="list-style-type: none"> ①介護過程の目的・意義・展開 ②介護過程とチームアプローチ <p>演習の実施方法</p> <ul style="list-style-type: none"> * イラストからアセスメントする A 現状は・・・ B このままでは・・・ C 原因は・・・ D 改善するために・・・が必要 * I：A～Dを文章化する * II：A～Dの事実を分析する * IとIIを比較し気づいたことを話し合う

(15)総合生活支援技術演習	6	—	—	6	<p>講義の内容 (事例による展開) ▶ 生活の各場面での介護については、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。</p> <p>①事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題（1事例1. 5時間程度で上のサイクルを実施する）</p> <p>②事例は高齢（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2事例を選択して実施</p> <p>実技内容 事例1：Aさん（85歳・女性・要介護4・認知症） 事例2：Bさん（76歳・男性・要介護1・左不全麻痺） 上記2事例に関して、 * -1 「衣類着脱の介助」「移動の介助」「食事の介助」「入浴の介助」の5つの場面の日常生活の支援を実施する場合の具体的介助方法を検討し記述する。 * -2 * -1の介護方法がなぜ必要かその根拠を考え判断した理由を記述する。</p>
10 振り返り（4時間）	4	—	—	4	●研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる
(1)振り返り	2	—	—	2	<p>講義の内容 ①研修を通して学んだこと ②今後継続して学ぶべきこと ③根拠に基づく介護についての要点 （利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等）</p> <p>演習の実施方法 * 振り返りチェック表による自己確認（説明に沿って確認）</p>
(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	—	—	2	<p>講義の内容 ①継続的に学ぶべきこと ②研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例（OFF-JTやOJT他）を紹介</p> <p>演習の実施方法 * ディスカッション（グループ発表） テーマ『専門職に求められているものは何か』 個々の感想だけでなく今後の活動へと発展させる</p>